

令和3年度 産山学園共通実践事項+2

- (1)単元のゴールの姿（単元デザイン）
- (2)導入 **う**（問いやつぶやきを引き出している・子供の言葉でめあてを立てている）
- (3)展開 **ふ**・**や**（積極的なファシリテート・思考ツールの活用）
- (4)終末 **ま**（子供の言葉を生かしたまとめ・自らの学びや自己の変容がわかる振り返り）
- *効果的な場面で目的に応じたICT機器の活用
- *学習過程が分かるように整理された板書の工夫

校内研通信

No. 4

7月7日（水）

文責：富永

研究授業大研1から

6月30日（水） 2年生 単元名「スイミー」 授業者：中村みき先生

<校内研の視点での分析>

○仮説1 について

初発の感想ででた児童の疑問等を各時間の「問い」として生かされていて、主体的に学習に取り組むことができていた。また、単元のゴールを「わくわくするような紹介文を作る」と定めたことにより、児童の見通しが立ち、知的好奇心を高めることにもつながっていた。そして、児童が自分の言葉でまとめたことで、自己の変容を自覚したり、学習を振り返ったりすることができた。

○仮説2 について

児童の発言に対しての問い返しや児童同士の考えをつなぐ言葉かけ等、教師のファシリテートがあり、考えを深めることにつながっていた。また、思考ツールとしてクラゲチャートを使用していたことにより、自分なりの根拠を明確にした理由づけを行うことにつながり、より考えを深めることができていた。

<まとめ>

今回の授業研から、子ども側からの学びを考えていくことの重要性をより実感できたのではないのでしょうか。子どもの思考を見取ったり、単元のゴールを設定し、それに向かって課題を立てたりとバックワードデザインで授業を考えていくことが、子どもにとっての質の良い学びに繋がると思います。そういった意味でも、日頃の教材研究や教材分析が大切になってくると様々な先生方がおっしゃっていたことにも結びつきますよね。

* 裏面からこれまでの実践例（2018年度）を載せていますのでご参考になれば幸いです。

* 国語科の視点からの分析は、笹原指導主事をお願いしております。複数号発行されると思いますので楽しみにされておいてください！

【自評】

◎よかった点

・子どもの言葉を生かしての単元のゴールの設定や本時のまとめ等を行えたこと。

△反省点

・自己の考えをもたせる際の視点を焦点化させると、より深い学びへとつながれたこと。



中村みき先生、貴重な授業ありがとうございました。

次回、7月14日（水）研究授業中研1となっています。1st:宗先生 2nd:井さ先生 3rd:東先生 お世話になります。

*構想案の略案は、職員共通→R3→012研究→テーマ研→学習構想案関係 に入っています。よろしくお願いします。